

1959年、 14人の志士が知恵と情熱を胸に、 荒波に漕ぎだした。

戦後の日本が高度成長の幕開けを迎えた1959年、坂上守を中心に14名が名古屋に集い、「富士機械製造株式会社」を創業した。

当時はまだ設計図もなく、知恵と情熱だけが頼りだった。

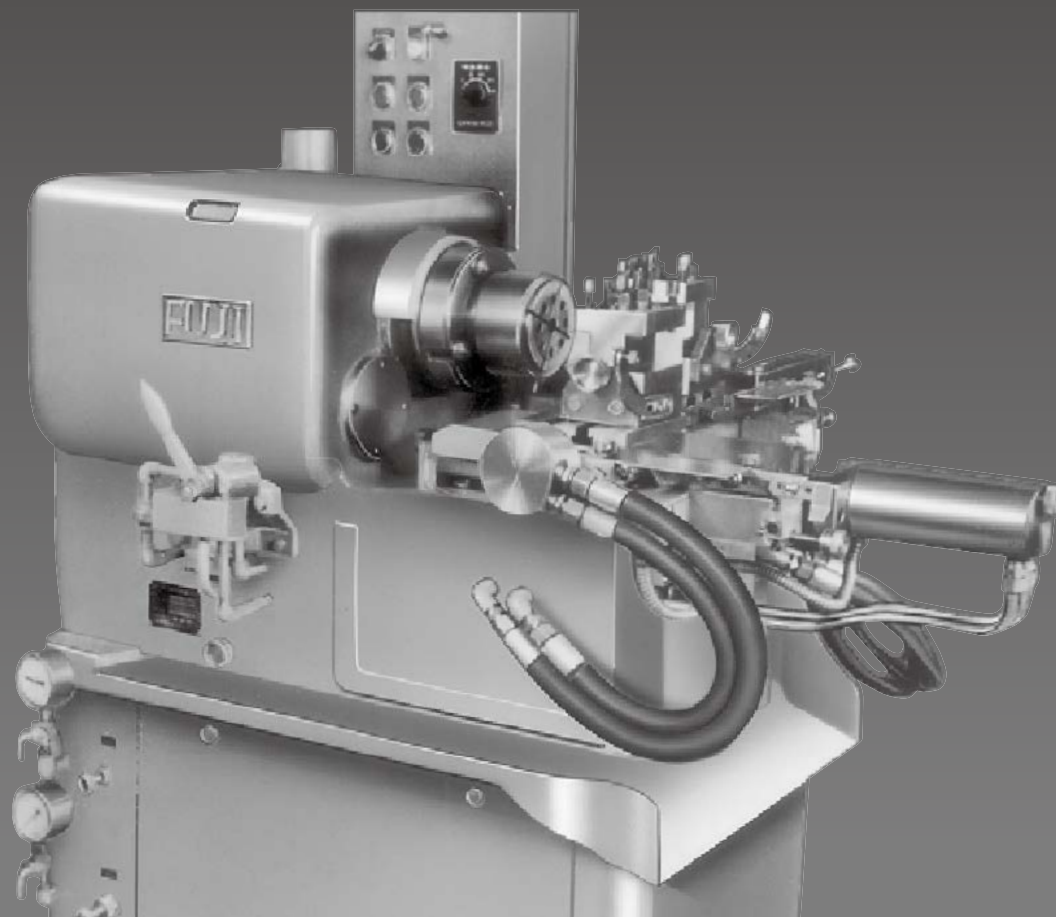
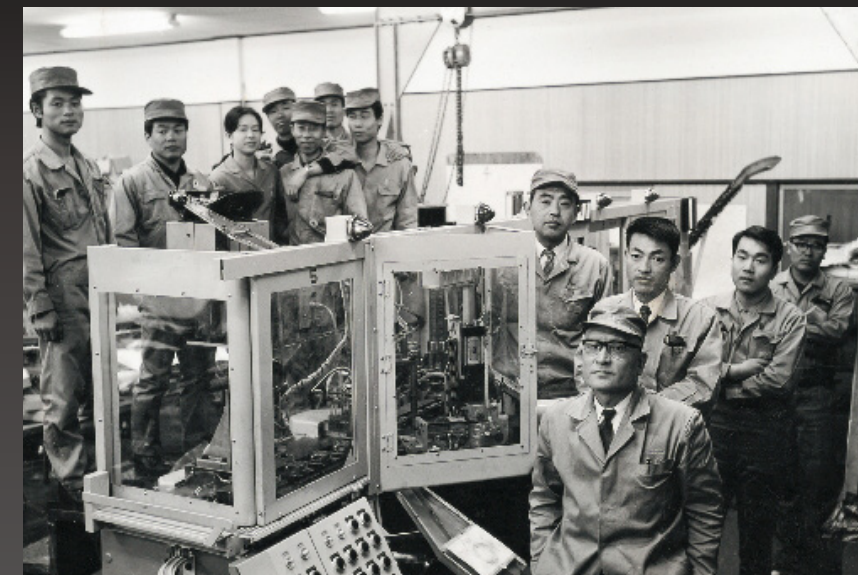
創業間もない工場は伊勢湾台風で被災するも、わずか半月で愛知県知立町（現知立市）にて操業再開。

ものづくりにかける不屈の精神が、会社の礎となった。

FS型単能機の完成と同時に、圧倒的な受注が舞い込む。

1964年には名証二部に上場し、着実に歩みを進めていった。

創業からの原動力は、常に「現場から生まれる発明力」と「お客様に応える誠心誠意」であった。



業界初の技術を武器に、 実装ロボットで世界の頂へ。

1978年、電子部品自動挿入機BAの開発により、FUJIは新たな時代を切り拓いた。

1985年には業界初の画像認識付き高速装着機CP-IIが完成し、以降、

電子部品実装の分野でグローバルトップクラスの地位を確立。

米国、欧州、アジア各国へ拠点を広げ、90年代には売上1,000億円を突破するなど、
大きな飛躍を遂げた。

2000年代にはモジュール型高速多機能装着機NXTを投入し、装置の柔軟性と生産効率を劇的に向上。

開発と生産現場の一体化で変化に強い組織を築き上げ、“技術のFUJI”の名を世界に轟かせた。



自動化、多様性、 地球との共生を軸に、 ものづくりの 新しい価値を創造する。

半導体、EV、医療など、変化の激しい産業において、FUJIは常に「ものづくりの可能性」を問い直してきた。

マウンターから始まる装置の進化は、生産ライン全体へ、そしてスマートファクトリーへと広がっている。

人とロボットが協働する未来、脱炭素や省エネへの挑戦。

私たちは、技術と情熱で産業の根幹を支えながら、世界中の人々の暮らしと地球の持続可能性に貢献していく。

これからのFUJIは、社内外の多様な人材がともに成長し、

未来を「自分ごと」として切り拓き、文化と仕組みをつくり続けていく。



企業理念

コーポレート
メッセージ

innovative spirit

Purpose パーパス

人々の 心豊かな 暮らしのために

Philosophy フィロソフィー

- 地球環境ならびに人々の幸福に資する商品・サービスをお届けします。
- 事業を成長させ、ステークホルダーの皆さまへ適切に還元します。
- 法令遵守はもとより、それを超えた道徳心の高い企業であり続けます。

Vision ビジョン

半導体後工程チェーンにおけるFAブランドとして業界No.1へ

INTEGRATED REPORT 2025
CONTENTS

FUJIとは	01 Cover story
	07 企業理念／数字で見るFUJI／SMTとは／電子部品実装ロボット(マウンター)とは／モジュールコンセプト／編集方針
	09 人々の暮らしとFUJIとのかかわり
TOP MESSAGE	11 innovative spiritで「ものづくり」「くらし」「みらい」に貢献する
価値創造ストーリー	17 FUJIの価値創造
	19 資本戦略
	23 DX戦略
	25 知財戦略
マテリアリティと戦略	27 FUJIのマテリアリティ
	29 FUJI技術座談会
	35 ロボットソリューション事業:岡崎新工場棟の開設
	37 営業戦略
	39 ファスフォードテクノロジー
	41 マシンツール事業
	43 新規事業
	49 サステナビリティ経営
	51 環境
	57 サプライチェーンエンゲージメント
	59 人材戦略
価値創造の基盤	65 ガバナンス
データセクション	73 非財務データ
	75 財務データ
	77 会社沿革／会社概要

編集方針

本報告書はFUJIグループの経営戦略および財務情報・ESG情報について、ステークホルダー(株主様、お客様、お取引先様、従業員、地域社会など当グループと多様な利害関係のある方々)の皆様さらに理解を深めていただくこと、また皆様との対話のツールとして役立てていただくことを目的としております。

2024年度版では、コーポレートメッセージ「innovative spirit」を全体のコンセプトに据え、創業以来受け継がれてきた革新性がどのように企業価値を高め、社会の発展に貢献してきたかを、「カバーストーリー」や「技術座談会」を通して表現しました。また、中長期的な事業環境を踏まえ、「中期経営計画2026」に基づく具体的な事業戦略・方針とともに、FUJIの独自性や強みを多角的にご紹介しています。

当社は、今後も事業活動を通じて社会課題解決に取り組むとともに、情報開示の拡充を進め、ステークホルダーの皆様との対話やコミュニケーションを深め、企業価値向上に努めてまいります。

報告対象範囲

株式会社FUJIを中心に、グループ会社18社の活動について報告しています。一部は株式会社FUJI単体の内容です。

報告対象期間

2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)
一部2025年度の情報も含まれます。

見通しに関する注意事項

本報告書を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本報告書の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

また本報告書に含まれる業績予測ならびに将来予測は、本報告書作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる場合があります。

参考にしたガイドライン

経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」
IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」



数字で見るFUJI(2024年度)

売上高 1,273億円

営業利益率 10.8%

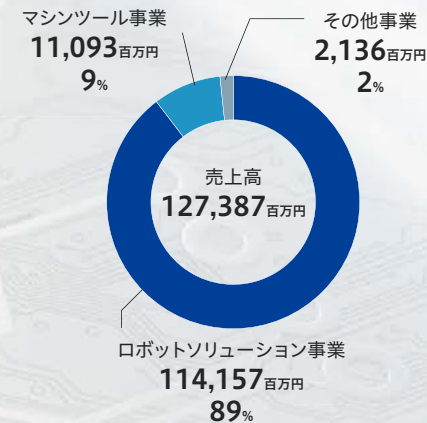
ROE 4.9%

海外売上高比率 89.4%

国内外ネットワーク 100拠点以上

納入実績 60カ国以上

セグメント売上高

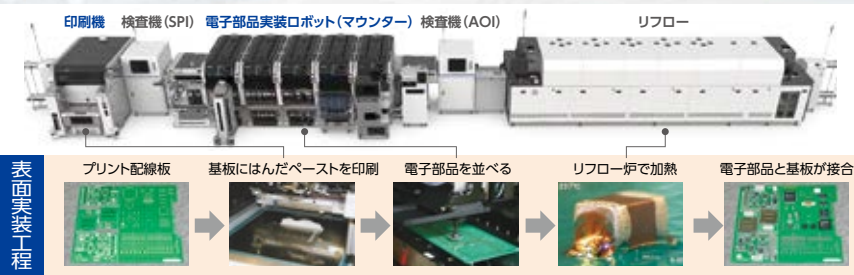


SMTとは

SMT(Surface Mount Technology:表面実装技術)とは、プリント配線板の上に電子部品を実装することで、スマートフォンやパソコン、家電製品、自動車、産業機器など、幅広い電子製品の中核となる電子基板を製造する技術です。電子基板は、SMTラインと呼ばれる自動化された生産工程によって、高精度かつ大量に製造されています。

SMTラインは主に3つの工程で構成されます。始めに、銅箔で回路が形成されたプリント配線板に、クリームはんだ印刷機を使ってはんだペーストを所定の位置に塗布します。続いて、電子部品実装ロボット(マウンター)によって、小さな電子部品を高精度に基板上の決められた位置に配置します。最後に、リフロー炉と呼ばれる加熱装置ではんだを溶かして部品と基板を接合することで、電子基板が完成します。

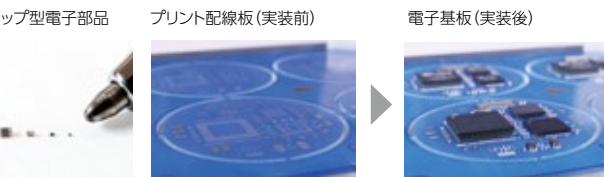
この一連の工程のうち、FUJIは電子部品実装ロボットの分野において、グローバルで高いシェアを誇っており、あらゆる電子製品の製造現場で活用されています。



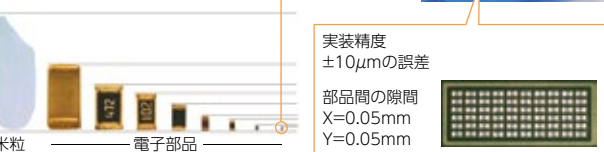
電子部品実装ロボット(マウンター)とは

電子部品実装ロボット(マウンター)は、電子部品をプリント配線板(PCB)の上に正確に配置する装置です。

FUJIのマウンターは、部品の位置決めと搭載を高速かつ高精度に行い、最小0.25mm×0.125mmという極小部品を、1秒間に最大16個搭載することが可能です。



電子部品サイズの比較



モジュールコンセプト

マウンターにおいて「究極のモジュール化」を追求した装置設計を採用。装置の構成要素もモジュール化されており、それぞれ容易に取り外しが可能です。メンテナンス性やスケラビリティに優れた装置デザインはFUJI独自の特長です。



取り外し可能

装置の内部の実装ヘッドもモジュール化されており、工具などを使わずに着脱することができます。



※ 装置モジュールを自在に組み替えてライン構成を最適化

人々の暮らしとFUJIとのかかわり

事業内容

電子部品実装ロボット(マウンター)

スマートフォンや家電製品や自動車の中に搭載されている電子基板上に半導体や電子部品を高速かつ高精度に取り付けるロボット



NXTR

半導体製造装置 (ダイボンダ)

半導体製造の後工程において、ウェハから切り出したダイ(半導体素子)をパッケージに収納するために基板上に貼り付ける装置



FASFORD TECHNOLOGY DBシリーズ

工作機械

金属素材を切削・加工し、自動車や産業用機械などを構成する高精度な部品をつくり出す機械



CS SERIES 正面2スピンドル旋盤

ライフサポート

介護・物流など幅広い分野で人々の暮らしに寄り添う製品・サービスを提供

介護ロボット
Huqスマートロッカーシステム
Quist

飛行機

通信衛星

船

通信基地局

建設機械

産業用機械

農業機械

冷蔵庫

テレビ

ゲーム機

スマートフォン

Huq

Quist

自動車

バス

電車

○ FUJIグループの製品
■ FUJIグループの製品によってつくられるもの